

2013年度（平成25年度）事業報告書

（自：2013年1月11日、至：2013年9月30日）

特定非営利活動法人 All Round Helicopter
宮城県気仙沼市赤岩牧沢 40-1

事業報告概要

気仙沼を中心とした宮城県北岩手県南三陸沿岸地域におけるヘリコプター運航のため、ヘリポートの整備などのハード面と、地域住民説明などのソフト面の準備を行った。また、救急患者搬送のための医療用多目的ヘリコプターの運航、及び大規模災害時の緊急出動を念頭に、近隣の自治体や医療機関等と連携体制構築のための調整業務を行った。緊急要請に応えるためのヘリコプターを使用した組織内訓練のみならず、関連機関と共同での模擬搬送訓練や、自治体との防災訓練も合わせて実施した。

事業報告詳細

1. ヘリコプター運航のための環境整備

設備面においてはヘリポートの用地を気仙沼市から無償提供されたことを皮切りに、ヘリコプター駐機のための格納庫設置、ヘリポート整備、医療器具の選定・購入、燃料貯蔵・給油設備の設置、事務所設営等を行い、ヘリコプター運航のために必要な基本的な設備を整えることができた。

また、ヘリコプターの柔軟な離発着環境を確保するため、気仙沼市内にて3ヶ所、一関市にて1ヶ所の場外離着陸場の許可を受けた。沿岸被災地においては、ヘリコプターの離発着場所確保は喫緊の課題であったが、上記のように複数個所の用地確保ができたことは、大きな成果と言える。

更に、地域住民の事業への理解と協力のため、ヘリポート周辺住民を対象とした説明会、住民宅への個別訪問を行う他、ヘリポートの見学会、試乗会を開催し、多くの方々に参加してもらうこととなった。参加者からは前向きな意見をもらい、事業開始に弾みがついた。

法人の立ち上げのため、総務経理等の書類作成を始め、会計ソフトの導入や団体リーフレットの作成など、多くの準備作業を行った。

2. 医療用多目的ヘリコプターの運航開始準備

救急患者搬送のための医療用多目的ヘリコプター運航のための調整業務を行った。公的な医療機関を中心とし、特定の医療法人に属さないヘリコプターの運航は全国的にも初めてであるが、関係機関の協力を得ながら積極的かつ辛抱強く調整してきたことで、正式運航開始の一手前までこぎつけることができた。9月には岩手県立大船渡病院から患者搬送要請を受け、正式運行開始前ではあったが、離発着環境の確保ができたため、東京ヘリポートから大船渡病院間の患者搬送を行った。

他にも、石巻赤十字病院とは患者搬送や医師派遣に関する協定を締結し、気仙沼市立病院や本吉病院等の搬送元医療機関や気仙沼市医師会等の関連機関と協議を重ねた。

また、国際医療福祉専門学校といった教育機関等とも連携し、患者搬送のため模擬訓練を実施し、より迅速かつスムーズな患者搬送を行うべく、準備を行った。

3. 大規模災害時における緊急出動のための体制構築

ヘリコプターを災害時に活用すべく、気仙沼市や南三陸町と災害時対応等に関する協定を締結した。また、岩手県一関市とも連携をとり、気仙沼市と共同で協議会を設立し、国土交通省の広域的な地域間共助推進事業に選定された。この枠組みにおいて、気仙沼市・一関市が参画する防災訓練を実施した。三陸沿岸地域では、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けたが、同地域は津波常襲地帯でもあるため、将来の災害に備える必要がある。上記市町村のみならず、陸前高田市とも災害時対応に関する協議を行っている。

4. 広報・調達活動

ホームページを開設するとともに、SNSを活用した積極的な情報発信を行った。また、全国的にも珍しい事業であり、多くのメディアに取り上げられることとなった。

また、国際医療福祉専門学校一関校や石巻赤十字病院等が開催するイベントにヘリコプターの機体を展示し、事業の周知及び募金活動を行った。

資金面においては、公益社団法人 Civic Force や特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン等から支援を受けつつ、長期的な事業継続性を確保するため、複数のインターネット募金サイトへの登録や、企業スポンサーの募集などの調達活動も実施した。

参考写真



(格納庫、ヘリポート周辺の様子)



(患者搬送模擬訓練)



(地域住民向け試乗会)



(イベントでの機体展示)

以上